

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660010Q1	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	勝田 順一		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟41		
対象学生(クラス等) / Object Student	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL/Tel	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー/Office hours	基本的には講義終了後講義室,またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標/Goal	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学习としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
授業内容/Class outline/Con	<p>“ものづくり”の手順, “もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミスについて、実態と対策を考える。</p> <p>第1回 講義の概論, 講義の目的, “ものづくり”の成果  第2回 “ものづくり”の成果と破壊事故分析  第3回 力に対する材料の限界, 破壊とは  第4回 最近の事故例における発生の背景  第5回 事故例と事故分析  第6回 工学的安全システムの有効・無効  第7回 “ものづくり”における『安全』とは  第8回 “ものづくり”における安心と市民の『安心』とは  第9回 技術者の責任と市民の責任  第10回 人が犯すミスとその背景, および体験  第11回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験  第12回 思い込みと錯覚による安全喪失  第13回 外部情報と脳の受容情報  第14回 人の理解と脳の理解, その行動  第15回 安心文化の醸成のためには</p>		

キーワード/Key word	破壊事故，医療事故，組織事故，安心・安全，ヒューマン・ファクタ，脳科学，認知科学
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いず，教員作成の講義資料（プロジェクト），ビデオ，配布資料，実験資料によって行う。 必要に応じて，参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等/Evaluation	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は，不合格とする。 課題レポートでは，自分自身の多面的な考察，意見，感想のみを評価し，講義内容を記した部分は評価対象外とする。 レポートでの得点で合格に達した者については，受講態度や自主学習を考慮して，成績を報告する。
受講要件（履修条件）/Requirements	欠席は認めず，全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ，個別指導を行う。なお，高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。 受講学生数は，最大50名とする。
学生へのメッセージ/Message for students	準備は必要ないが，講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 5
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660010Q2	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(異文化コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	大橋 絵理		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	大橋 絵理		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	大橋 絵理, 奥田 阿子		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi@nagasaki-u.ac.jp, a-okuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086(大橋)、095-819-2380(奥田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 15:00-16:00(大橋, 奥田)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	2010年に日本での国際結婚は4.3%以上となっており、この数字は世界のグローバル化に伴い、さらに増加すると推測されている。したがって、「国際結婚について考える」という学習内容は、学生の将来のみならず、日本社会全体にとっても避けては通れない検討課題であると思われる。この授業では、国際結婚という問題を通して、各国の社会、文化、宗教、政治、法律の相違という他者的な視点を考察し、自己の理解を相対化することをねらいとする。		
授業到達目標/Goal	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。		
授業方法(学習指導法)/Method	この授業では、講義、グループ活動、発表を通して国際結婚についての知識を深めていく。初めの数回は、講義形式の授業を数回取り入れ、この授業における前提の知識を得る。その後は、1グループ5名ほどのチームに分かれ発表に向けた調査を行う。調査では、インターネットや外国人に英語でインタビューなどして情報収集をし、チーム内で議論をしながら発表準備を行う。発表では、調査結果を報告するだけでなく、他のグループを評価しながら、新たな知識を身につけていく。		
授業内容/Class outline/Con	この授業は国際結婚について、知識を深めます。 また、アクティブラーニングを導入し、主体的に学ぶ姿勢を育成します。		
キーワード/Key word	異文化、他者、国際理解、共生思想		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は採用しない。 <参考書> 1) 小栗 左多里、『ダーリンは外国人』、メディアファクトリー、2002年 2) 河原 俊昭ほか、『国際結婚 多言語化する家族とアイデンティティ』、明石書店、2009年 3) 田代純子、『国際結婚・離婚ハンドブック』、明石書店、2011年 4) 竹下修子、『国際結婚の諸相』、学文社、2004年 5) 榎本 行雄ほか、『国際結婚実務ガイド』、明石書店、2012年		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業態度(積極的発言等) 20% プレゼンテーション 40% レポート 40%		
受講要件(履修条件)/Requirements	各人が 1) プレゼンテーションの資料を作る 2) プレゼンテーションをする 3) ディベートに参加する 4) レポートを書く 5) 授業外学習に週平均2時間程度を充てること、参考資料をきちんと読むこと。		

学生へのメッセージ/Message for students	授業外学習の具体的な活動例： プレゼンテーションの資料を作る。 ディベートの準備をする。
授業計画詳細	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業の概要の説明 1) 国際結婚をテーマとしたアクティブラーニングを授業で実施することを説明する。 2) 「日本の結婚制度の成立」、「欧米のキリスト教社会の結婚」、「中東、アフリカのイスラム教社会の結婚」、「アジア各国の結婚(韓国、中国、東南アジア)」の歴史と現状についてバランスよく情報を提供する。
第2回	テーマとゴールを設定 1) 「全体のテーマ」国際社会と結婚について考察する。 2) 「全体のゴール」グローバル化する国際社会への対応法 3) 関心がある者どうしでのチーム作り(1チーム5人)
第3回	計画 1) 各チームで具体的に何をテーマにすべきかを考え、役割分担、各自の仕事を確認する。2) 具体的な「工程表」「企画書」を作成する。
第4回	映画鑑賞 1) 「ダーリンは外国人」の映画を見る。 2) 感想を議論する。
第5回	インタビュー 1) 外国人に授業に来てもらって、英語でその国の結婚制度について説明してもらう。 2) その後学生達も英語で質問して、答えてもらう。
第6回	情報リサーチ(1) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第7回	情報リサーチ(2) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第8回	情報リサーチ(3) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第9回	製作(1) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。
第10回	製作(2) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。 [特別講師：野田 康文]
第11回	プレゼンテーション(1) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答をする。 2) それらを学生相互で採点する。
第12回	プレゼンテーション(2) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
第13回	プレゼンテーション(3) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
第14回	ディベート(1) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
第15回	ディベート(2) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
第16回	レポート レポートを書く。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660010Q3	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	勝田 順一		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟14		
対象学生(クラス等) / Object Student	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL / Tel	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー / Office hours	基本的には講義終了後講義室,またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標 / Goal	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
授業内容 / Class outline / Con	<p>“ものづくり”の手順, “もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミスについて、実態と対策を考える。</p> <p>第1回 講義の概論, 講義の目的, “ものづくり”の成果  第2回 “ものづくり”の成果と破壊事故分析  第3回 力に対する材料の限界, 破壊とは  第4回 最近の事故例における発生の背景  第5回 事故例と事故分析  第6回 工学的安全システムの有効・無効  第7回 “ものづくり”における『安全』とは  第8回 “ものづくり”における安心と市民の『安心』とは  第9回 技術者の責任と市民の責任  第10回 人が犯すミスとその背景, および体験  第11回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験  第12回 思い込みと錯覚による安全喪失  第13回 外部情報と脳の受容情報  第14回 人の理解と脳の理解, その行動  第15回 安心文化の醸成のためには</p>		

キーワード/Key word	破壊事故，医療事故，組織事故，安心・安全，ヒューマン・ファクタ，脳科学，認知科学
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いず，教員作成の講義資料（プロジェクト），ビデオ，配布資料，実験資料によって行う。 必要に応じて，参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等/Evaluation	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は，不合格とする。 課題レポートでは，自分自身の多面的な考察，意見，感想のみを評価し，講義内容を記した部分は評価対象外とする。 レポートでの得点で合格に達した者については，受講態度や自主学習を考慮して，成績を報告する。
受講要件（履修条件）/Requirements	欠席は認めず，全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ，個別指導を行う。なお，高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。 受講学生数は，最大50名とする。
学生へのメッセージ/Message for students	準備は必要ないが，講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660010Q5	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(共生のグローバル人類学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	増田 研		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	総合教育研究棟 2 階		
担当教員TEL / Tel	2923		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時(事前連絡が必要)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>グローバル化された世界における共生のあり方を、文化人類学という武器を使って探る。これがこの「共生のグローバル人類学」という講義の目的である。文化人類学は異文化ひいては文化的他者を理解する学問であり、なおかつ、人類文化の普遍性を明らかにする学問である。</p> <p>他方、私たちが生きる世界においては、共生の重要性を誰もが認めつつも、それと真っ向から対立する出来事が充ち満ちている。必要なことは「過去に学び、現在を理解し、未来を構想する」、そのための身のこなしを習得することであり、そのこと自体の重要性を理解することであろう。またグローバル化された世界を構想する力を養うことは、自らのポジションを見定めることでもある。</p>		
授業到達目標 / Goal	<p>(1)現代世界が抱える問題について、歴史的背景を把握しながら理解し、説明できる。</p> <p>(2)社会的事象に対する文化人類学アプローチの特色を理解し、説明できる。</p> <p>(3)現在進行している「共生」への模索と、その解決の道筋を構想し、主張することが出来る。</p>		
授業方法(学習指導法) / Method	原則として講義科目であるが、場合によってワークショップ形式を取り入れることもある。(実際の授業運営は受講人数によって調整される。)		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	文化人類学、多文化共生、紛争、開発、異文化理解		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書はとくに指定しないが、以下のものを参考書として挙げておく。(その他の推薦資料については講義中に適宜紹介する。)</p> <p>奥野克巳・花淵馨也(編)『文化人類学のレッスン』(学陽書房)、2005年  佐藤 寛、藤掛 洋子編著『開発援助と人類学 冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店  2011年</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	毎回のレスポンスペーパー(40%)および試験(60%)によって評価する。		
受講要件(履修条件) / Requirements	<p>受講生は以下の点を努力して欲しい。</p> <p>(1)可能な限り全ての回に出席すること(すべての講義が一続きになるようにシラバスを設計しており、欠席すると理解が追いつかないかもしれない。)</p> <p>(2)社会情勢とりわけ世界の出来事をよく知っていることが望ましい。日常生活において新聞を読むことを習慣とすること(インターネット上の「ネット記事」ではダメである。)</p>		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	現代社会の多様な問題と「共生」(増田) 現代社会の問題を意識し、「共生」へと関心を開くこと		
第2回	世界はボーダーレスの球面である(増田) 世界の「つながり」を認識し、自らが生きる「狭い世界」の脈絡とつなげる。		
第3回	帝国主義と植民地、世界システム(増田) 異文化交流の問題を、世界史的視野において理解する。		
第4回	文化人類学のアプローチ(増田) 文化人類学の出現から現在までのアプローチの変遷を理解する。		
第5回	エスノグラフィーを書く:紛争と健康と教育(増田) 増田によるエチオピアでのフィールドワーク実践例を通して、現代的課題に対する取り組みの事例を知る。		

第6回	アフリカにおける紛争の研究：導入（波佐間・増田） アフリカにおける紛争の概要と、その理解のパラダイムを知る。
第7回	敵対と友好を揺れ動く民族間関係（波佐間・増田） 北東ウガンダの牧畜民社会の紛争の事例から民族間関係の動態を理解する。
第8回	マスメディアがむける東アフリカの民族紛争へのまなざし（波佐間・増田） マスメディアが広めるアフリカへのステレオタイプを批判する。
第9回	東アフリカ牧畜社会での平和構築と外部介入（波佐間・増田） ケニア・カクマ難民キャンプの事例をもとに、平和構築のあり方を理解する。
第10回	社会開発（Development）とは何か？（増田） 共生的関与のあり方のひとつである「社会開発」の概要と、その歴史的経緯を理解する。
第11回	第二次世界大戦中、戦後の人類学の歴史的背景（佐藤・増田） 人類学の発展の背景の具体例および、戦中の人類学の目的と戦後のそれに対する批判を理解する。
第12回	世界銀行の中での人類学、人類学者（佐藤・増田） 世界銀行の開発政策の変遷とそこでの人類学者の役割を理解し、世界銀行の人類学者らが提唱する国際開発のキーワードとその概念を説明できるようにする。
第13回	開発と人類学：事例紹介(1)（佐藤・増田） 人類学的アプローチを開発プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。
第14回	開発と人類学：事例紹介(2)およびまとめ（佐藤・増田） 人類学的アプローチを保健プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。
第15回	全体の総括（増田） 講義全体の総括を行う。
第16回	



学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660010Q6	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(疑似科学とのつき合い方)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	武藤 浩二		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	武藤 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	武藤 浩二		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟42		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	cosy @nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部 美術技術教室 206		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	現代社会に蔓延する各種の疑似科学について学び、それらがなぜ疑似科学と呼ばれるのかを理解することによって、科学的なものの見方を獲得する。 さらに科学の「限界」を把握し、科学と価値の関係の理解を通じて、自律的に生きるための基礎力を養う。		
授業到達目標/Goal	科学的なものの見方を獲得する。 疑似科学かどうかを判断するための方策を考えることができるようになる。 科学と価値の関係について考察できるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	黒板への番書やスライド、ビデオを用いた講義と、担当教員と受講生による討論を行う。 講義資料や課題用紙はLACSや教員のWEBページを通じて配布する。		
授業内容/Class outline/Con	講義内容は多岐にわたるので、以下のように各教員がテーマに基づいて講義を行う。 回 主担当者及びテーマ 01 全教員「Introduction」 02 福山隆雄「血液型と性格」 03 武藤浩二「マイナスイオンとゲルマニウム」 06 福山隆雄「デマの拡がり」と都市伝説」 04 武藤浩二「水からの伝言」 05 武藤浩二「代替医療」 07 武藤浩二、山岸賢一郎「リアルとバーチャルの狭間」 08 全教員「全体討論会#1」(第1~7回の講義について全教員・学生で討論) 09 小西祐馬「社会調査のリテラシー:統計データとの正しい接し方」 10 小西祐馬「乳幼児の教育について:早期教育の問題点」 11 安部俊二「蔓延する学位商法(ディプロマ・ミル)」 12 安部俊二「裁判と 科学 :血液型とDNA鑑定」 13 山岸賢一郎「『昔はよかった』を考える」 14 山岸賢一郎「信じること/疑うことを考える」 15 全教員「全体討論会#2」(講義全体について全教員・学生で討論) 各教員の担当回及びテーマは変更する場合があります		
キーワード/Key word	科学, 疑似科学, 前科学, 宗教の歴史, 認識論, 感性, 法医学, 大学偽装		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	資料:長崎大学教育学部「疑似科学とのつきあいかた」研究会編『疑似科学とのつきあいかた:教師を目指す皆さんへ』 <a href="http://hdl.handle.net/10069/23093">http://hdl.handle.net/10069/23093</a> 参考書:菊池聡『なぜ疑似科学を信じるのか』(化学同人), 菊池誠 et.al.『もうだまされなないための「科学」講義』(光文社新書), 安斉育郎『科学と非科学との間』(かもがわ出版), 伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』(名古屋大学出版会), 池内了『疑似科学入門』(岩波新書), 菊池聡 et.al.『不思議現象 なぜ信じるのか』(北大路書房), 伊勢田哲治 et.al.『科学技術をよく考えるクリティカルシンキング練習帳』(名古屋大学出版会), ジュリアン・バジーニ『100の思考実験』(紀伊國屋書店), 南郷継正『弁証法・認識論への道』(三一書房), 須田桃子『捏造の科学者』(文藝春秋), 河内敏康・八田博輔『偽りの薬』(毎日新聞社)等		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	講義テーマへの積極的な取り組みを重視する立場から、最終課題レポート(50%), 討論を含む講義への貢献度および各教員が課す「小レポート」の成績(50%)で総合的に評価する。		
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	講義情報についてはLACSを参照のこと		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050R1	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(宗教から見た日本)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	滝澤 克彦		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	滝澤 克彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	滝澤 克彦		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	takizawa@nagasaki-u.ac.jp		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本の宗教文化は、その風土を反映し多様性と混合性に富む。この授業では、個別の組織宗教だけではなく、民間信仰やスピリチュアリティに至るまでのさまざまな事例をとりあげ、「日本文化」と呼ばれるものを相対化しつつ現代日本社会の特質に迫る。		
授業到達目標/Goal	(1) 宗教研究の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。 (2) 「宗教」に焦点を当てることで「日本文化」を相対化して論じられるようになる。 (3) 現代日本社会の特定の宗教的側面を捉え、それを自分なりの視点で分析できるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	各回の授業内容に示された特定のテーマを採り上げ講義形式の授業を行う。また、授業の終了時には、講義内容に関するアンケートを実施する。その他、状況に応じて事前の課題講読、授業中の質疑討論を行う。		
授業内容/Class outline/Con	本授業では、日本の宗教文化を主題に、宗教研究の基本的な考え方を学び(第1回~第5回)、それに基づき各回のトピックに合わせた具体的な事例を分析する(第6回~第15回)。特に、宗教研究の概論では、われわれが漠然と理解している「宗教」や「日本文化」といったものが、歴史的にどのように対象化されてきたのかということを理解し、その上で「宗教」に焦点を当てることで「文化」や「社会」の見え方がどのように変わってくるかを学習する。各回のトピックにもとづく各論では、生老病死など人間にとって身近な主題を、概論で学んだ宗教研究の視座を通して分析する。それによって、現代日本社会の状況を相対化して捉える視座を養う。		
キーワード/Key word	宗教文化、風土、組織宗教、民間信仰、現代社会		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。参考文献については授業中に適宜指示する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業への積極的参加(授業ごとのアンケート提出など)50%、学期末試験50%		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに		
第2回	宗教とは何か		
第3回	日本人と宗教		
第4回	民間信仰論		
第5回	日本文化起源論		
第6回	生業と自然		
第7回	神話と儀礼		
第8回	霊魂と世界		
第9回	死者との関わり		
第10回	病氣と身体		
第11回	高齢化と宗教		
第12回	福祉と宗教		
第13回	災害と宗教		
第14回	現代社会と宗教		
第15回	まとめ		
第16回	試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660030Q1	科目番号 / Subject code	05660030
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	言語と芸術(文学・芸術と核兵器)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓, 山上 徹二郎, 赤木 幹子		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生(クラス等) / Object Student	2年次, 経済, 教育, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日3・4限およびアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけられてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。		
授業到達目標 / Goal	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、現状を理解し、その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
授業方法(学習指導法) / Method	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学びながら、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。さらに積極的にLACS等も活用する予定です。また、講師として、現役のプロデューサー、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		
授業内容 / Class outline / Con	様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。		
キーワード / Key word	核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は特に指定しません。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定です。できるだけ自分で読んでください。 長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が60%、期末の成果物(通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています)が40%です。		
学生へのメッセージ / Message for students	文学、芸術は、講義で説明を聞いているだけで理解できるものではありません。できるだけ積極的に戦争、平和、核兵器をテーマとした映画、ドラマ、コミック、絵本、小説等を自分で見たり、読んだりするように努めてください。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに：授業の進め方(広瀬 訓) 文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」		

第2回	<p>他人に伝えるということ（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文章」とは何か</li> <li>・事実の調べ方</li> <li>・他人に伝わる文章の組み立て方</li> <li>・児童文学とは何か</li> </ul>
第3回	<p>原爆と映画：その1（山上徹二郎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「映画」というメディアの特徴と影響について</li> </ul>
第4回	<p>戦争と平和の文学と芸術（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学と絵本が描く戦争と平和</li> <li>・戦前の日本の文学とコミック「少年倶楽部」と「のらくろ」</li> </ul>
第5回	<p>戦争児童文学は何を伝えてきたか（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国作品</li> <li>・日本の作品</li> </ul>
第6回	<p>コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を伝えたかったのか</li> <li>・メッセージとテクニク</li> </ul>
第7回	<p>原爆と映画：その2（山上徹二郎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を、何故、どう描くか</li> </ul>
第8回	<p>コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情的表現と理論的表現</li> <li>・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」）</li> <li>・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）</li> </ul>
第9回	<p>核をテーマとした児童文学（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国作品</li> <li>・日本の作品</li> </ul> <p>プラス資料の探し方、調べ方</p>
第10回	<p>芸術の持つ力（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「風が吹くとき」のインパクト</li> </ul>
第11回	<p>児童文学と広島・長崎（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文学の中の原爆</li> <li>・広島・長崎の児童文学</li> </ul>
第12回	<p>メディアの功罪（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「戦うマンガ」</li> <li>・ジャパン・アニメバッシング</li> <li>・「売る」、「煽る」、「考える」</li> </ul>
第13回	<p>新しいメディア（広瀬）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルメディアと核兵器</li> <li>・NagasakiArchive という挑戦</li> </ul>
第14回	<p>原子力発電と児童文学（広瀬）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の問題にどう向き合うか</li> <li>・3/11後の児童文学</li> </ul>
第15回	<p>まとめ（広瀬 訓）</p>
第16回	<p>期末レポート提出</p>

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660030Q3	科目番号 / Subject code	05660030
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	言語と芸術(日本のことばと文芸)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	池田 幸恵		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yu-iked@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟12階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2931		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日10:30-12:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	さまざまな時代の言語資料を取り上げ、そこに見られる日本語の諸問題を考察することを通して、日本語・日本文化に対する理解を深める。		
授業到達目標/Goal	日本語・日本文化の特徴について説明することができる。 文学作品をさまざまな視点から読み、それを自分の言葉で伝えることができる。 日本語・日本文化の歴史的な変遷について理解し、それを現在の身近な問題と結びつけて考えることができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	毎回、次回の授業に関する課題を出し、講義中に解説を行う。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	日本語 日本文学 漢字		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	プリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	毎回の課題に対する準備内容50%、定期試験50%		
学生へのメッセージ/Message for students	高校の古典では学んだことのない文献資料が日本には数多く残されています。それらにふれることにより、日本語・日本文化に対する理解を深めましょう。受講に際しては、日本語の古典文法や現代語文法について高校程度の知識があることが望ましいです。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	日本の文字(1)		
第3回	日本の文字(2)		
第4回	日本の文字(3)		
第5回	奈良時代の言語資料(1)		
第6回	奈良時代の言語資料(2)		
第7回	平安時代の言語資料(1)		
第8回	平安時代の言語資料(2)		
第9回	平安時代の言語資料(3)		
第10回	平安時代の言語資料(4)		
第11回	院政・鎌倉時代の言語資料(1)		
第12回	院政・鎌倉時代の言語資料(2)		
第13回	室町時代の言語資料(1)		
第14回	江戸時代の言語資料(2)		
第15回	江戸時代の言語資料		
第16回	テスト		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660030Q4	科目番号 / Subject code	05660030
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	言語と芸術(日本の言語と文化)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	池田 幸恵		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟22		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部2号館12階		
担当教員TEL/Tel	819-2931		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日10:30-12:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。		
授業到達目標/Goal	敬語が正しく使える。敬語の誤用を訂正できる。正しい日本語表記ができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義終了後に確認テストを行う。		
授業内容/Class outline/Con	現代日本語に関する諸問題について、敬語・方言・表記などのテーマごとに講義する。 第16回 定期試験		
キーワード/Key word	日本語 方言 敬語 表記		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	プリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	確認テスト50%、定期試験50%		
学生へのメッセージ/Message for students	受講を通して、自分の日本語の「正しさ」を見つめ直しましょう。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	敬語に関する世論調査(1)		
第3回	敬語に関する世論調査(2)		
第4回	敬語の正用・誤用		
第5回	手紙を書く		
第6回	方言(1) 方言の歴史		
第7回	方言(2) 方言と共通語		
第8回	方言(3) 方言の研究		
第9回	方言(4) 長崎県の方言		
第10回	方言(5) 方言地図をよむ		
第11回	日本語表記の諸問題(1) 現代仮名遣		
第12回	日本語表記の諸問題(2) 漢字政策		
第13回	現代語の諸問題(1) 若者言葉		
第14回	現代語の諸問題(2) 外来語		
第15回	現代語の諸問題(3) 日本人の名前		
第16回	テスト		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/20		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660030Q5	科目番号 / Subject code	05660030
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	言語と芸術(芸術と文化)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	堀内 伊吹		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	堀内 伊吹		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	堀内 伊吹		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟22		
対象学生(クラス等) / Object Student	主対象, 1年~4年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	horiuchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部音楽棟2階206(改修工事の場合は変更します)		
担当教員TEL / Tel	095\ 819-2343		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日 6時間目		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	長崎の芸術文化活動の実態を概観し、実際に文化施設に出かけ、芸術鑑賞を行う。		
授業到達目標 / Goal	音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。		
授業方法(学習指導法) / Method	視聴覚機器を活用して、またその分野のゲストをお迎えしての講義と文化施設に出かけての演習。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	音楽文化、文化ホール、自主文化事業、音楽祭		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	その都度指示します		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	推薦する文化イベントから2つを選択し、自分の意見を交えた芸術体験レポートを提出。レポートによる評価を行う。		
受講要件(履修条件) / Requirements	心を静めて芸術鑑賞ができること		
学生へのメッセージ / Message for students	外部講師の先生方のご都合により、授業内容が変更になる場合があります。授業開始時に、スケジュールを示します。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	この授業の進め方、ガイダンス		
第2回	「長崎の文化活動について」		
第3回	「長崎の音楽文化活動の現状」		
第4回	「文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう」		
第5回	「音楽文化活動としての音楽祭」		
第6回	「美術と音楽」ゲストスピーカー、米田館長をお迎えして		
第7回	「マスメディアと文化」ゲストスピーカー、市原隆靖先生をお迎えして		
第8回	「美術と音楽、そして芸術」		
第9回	「長崎の歴史と文化」		
第10回	「長崎の歴史と文化」ゲストスピーカー、大堀館長をお迎えして		
第11回	「音楽芸術に親しむ方法」		
第12回	「クリスマスの音楽」		
第13回	「文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう」		
第14回	「長崎の音楽活動、その行方」		
第15回	「人生の友としての舞台芸術」		
第16回	(予備)		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q1	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(出島の科学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中山 守雄		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	中山 守雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	中山 守雄, 淵上 剛志, 川上 茂		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	morio@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	薬学部 5F 衛生化学研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2441		
担当教員オフィスアワー/Office hours	12:00-13:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	幕末から明治初期にかけ、出島を通して日本に近代科学・薬学をもたらした先人達、そして現代の日本の科学を先導したノーベル賞受賞者達の努力とその偉業への理解を深めることによって、現在、我々は何をなすべきかを考えるきっかけとする。		
授業到達目標/Goal	出島を通して、日本に近代科学・薬学をもたらした人々やその定着に貢献した先達の業績を調査し理解する。そして現在、日本が到達した科学水準を、下村博士をはじめとする日本のノーベル賞受賞者の研究等を通して把握する。		
授業方法(学習指導法)/Method	座学ではスライドなどの教材を用いて学習項目の概要を説明する。このほか、体験実験、グループディスカッション、などの学習方式を用いて学生の理解を深めるとともに自己学習を促す。さらにプレゼンテーションを課し、学生たちのコミュニケーション力、情報発信力の養成を図る。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	近代科学・薬学史、長崎出島、ノーベル賞、下村 脩 博士		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書 出島のくすり 長崎大学薬学部編 九州大学出版会		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	積極的授業参加態度(40%)、レポート(40%)、グループ活動の成果(20%)		
受講要件(履修条件)/Requirements	課題に対して十分な準備(授業外学習)を行うこと		
学生へのメッセージ/Message for students	グループディスカッションとプレゼンテーションは、皆さんの総合力を磨く絶好のチャンスです。どんなことでもいいので、積極的に発言する姿勢で臨んでください。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	1回: イントロ 講義概要・評価の説明、班分け、自己紹介		
第2回	2回: プレゼンテーションについて プレゼンテーションを行う際の留意点について講義		
第3回	2回: 出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期の講義 調査課題の決定		
第4回	3回: 出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期に活躍した人物の業績について調査 中間報告		
第5回	4回: 出島の化学 1 出島の化学の黎明期～導入・定着期に活躍した人物の業績について発表 最終発表		
第6回	5回: 出島の化学 2 長与専斎について講義 調査課題の決定		
第7回	6回: 出島の化学 2 長与専斎について調査 中間報告		



第8回	7回：出島の化学2 長与専斎について発表 最終発表
第9回	9回：日本におけるノーベル賞の系譜 ノーベル賞および日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を解説
第10回	10回：日本におけるノーベル賞の系譜 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を調査 中間発表
第11回	11回：日本におけるノーベル賞の系譜 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を発表 最終発表
第12回	12回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について講義 + 記念館見学
第13回	13回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について調査 中間発表
第14回	14回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について発表 最終発表
第15回	15回：発光（蛍光・化学発光）に関する実験 蛍光・化学発光に関する実験
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q2	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(文学と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	堀井 健一		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
対象学生(クラス等) / Object Student	3・4年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	pericles_kh*yahoo.co.jp (*の箇所に@)		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部本館6階611番研究室		
担当教員TEL / Tel	pericles_kh*yahoo.co.jp (*の箇所に@)		
担当教員オフィスアワー / Office hours	火曜日午後		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>主題は西洋の古代ギリシアの歴史です。教養としての古代ギリシアの社会についての知識を学びます。外国の歴史を学ぶのは外国語文献を読むことから始まりますから、皆さんには英語の絵本のようなものを翻訳してもらいます。その作業によって「知ること」に対する態度を養います。翻訳で内容を理解した上で古代ギリシアの社会の特徴を学びます。そこから現代社会にまで現存する文化の特徴を学びます。</p>		
授業到達目標 / Goal	<p>西洋の古代ギリシアの歴史, 社会, 文化の特徴を説明できるようにする ( , , , A, B, D)。英語による歴史叙述を読んで理解することができる ( , , )。英語による歴史叙述の内容を日本語で伝達できるようにする ( , , , D)。</p>		
授業方法(学習指導法) / Method	<p>英文翻訳の予習, 翻訳文の完成のためのグループディスカッション, 古代ギリシア社会の考察を行ないます。LACSの利用を予定しています。</p>		
授業内容 / Class outline / Con	<p>S. Peach &amp; A. Millard, The Greeks, Tulsa, 1990のイラスト世界史のシリーズ本を題材に使います。あらかじめ課題プリントを配布するので翻訳と下調べの予習をしてもらいます。予習の内容を講義時にグループディスカッションしたりクラスで発表してもらいます。5つの主題についてレポートを提出してもらいます。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 Social structure ~ 翻訳の検討  第3回 社会階層のまとめ  第4回 Democracy in Athens ~ 翻訳の検討1  第5回 Democracy in Athens ~ 翻訳の検討2  第6回 アテネ民主政のまとめ1  第7回 アテネ民主政のまとめ2  第8回 Sculpture ~ 翻訳の検討  第9回 ギリシア彫刻の特徴  第10回 The theatre ~ 翻訳の検討  第11回 ギリシア劇の特徴1  第12回 ギリシア劇の特徴2  第13回 Learnig ~ 翻訳の検討  第14回 小テスト, 学問のまとめ  第15回 古代ギリシア社会についてディスカッション</p>		
キーワード / Key word	西洋史, 古代社会		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書: P. レベック 『ギリシア文明 神話から都市国家へ』 創元社。参考書: 伊藤貞夫 『古代ギリシアの歴史』 講談社, 山本茂他 『西洋の歴史 [古代・中世編]』 ミネルヴァ書房, N. スパイヴィ 『ギリシア美術』 岩波書店。</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	古代ギリシアに関する教養的知識の小テスト(40%), レポート(50%), 予習・復習などの授業課題への良い取り組み(10%)		
受講要件(履修条件) / Requirements	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし, やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は, 単元に応じた個別指導を行なう。授業外学習に週平均2時間以上を充てること。		
学生へのメッセージ / Message for students	初回に予習の仕方について案内文書を通じて示すので, それに従って予習をすること。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q3	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(環境と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	星野 由雅		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部4階 415研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木曜日以外の昼休み		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように扱って行けば良いのかを考える。また、ドイツおよびネパールの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。		
授業到達目標/Goal	環境と社会と関わりについて、基本的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境と社会との関わりのあるべき姿について自らの意見を述べるができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書、配布資料、参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。授業中に学習内容の定着度を図る目的で小テストを数回課す。授業中に適宜調べ学習も行なう。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書1: 谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2: 及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全 暮らしの安全科学」共立出版		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50%、授業中の小テスト20%、課題レポート20%、発表10%とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60%以上とする。		
受講要件(履修条件)/Requirements	定員を80名までとします。		
学生へのメッセージ/Message for students	他の班のプレゼンテーションにおいても、積極的に質問、意見を述べること。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーションとイントロダクション。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題(事項と内容)を指示する。【課題: 個人レポート】		
第2回	班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項(法規や関連事項)を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題: 個人レポート】		
第3回	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項(法規や関連事項)を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。(特別講師: 横尾美智代)【課題: 個人レポート】		
第4回	班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための準備を行う。		
第5回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(1) 教員による補足説明。		
第6回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(2) 教員による補足説明。		
第7回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(3) 教員による補足説明。		

第8回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(4) 教員による補足説明。
第9回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(5) 教員による補足説明。
第10回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(6) 教員による補足説明。
第11回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表(7) 教員による補足説明。
第12回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 小テストの解説。 各受講生が課題とした法規、環境と社会との関わりを示した具体例の説明レポートの作成を指示。 【課題：個人レポート】
第13回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体 に対して説明レポートを基に発表。
第14回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体 に対して説明レポートを基に発表。
第15回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体 に対して説明レポートを基に発表。
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q4	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(メディア・コミュニケーション)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	深尾 典男		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	深尾 典男		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	深尾 典男		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	fukao@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	広報戦略本部(事務局棟2F)		
担当教員TEL/Tel	819-2008		
担当教員オフィスアワー/Office hours	9:30 - 19:30		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>社会人に求められる素養の一つに情報を収集し、分析する力があります。みなさんは日常生活のなかで、新聞やテレビ、雑誌、インターネットなどのメディアを通じてさまざまな情報に接していますが、このなかから、自分にとって必要な情報を収集し分析することは社会参画への重要な第一歩となります。一方、日々接する情報のなかには、気づかないうちに、みなさんの意識に大きな変化をもたらしているものもあります。個々のメディアの長所や短所を理解し、自らの社会生活に生かすことが、みなさんにとって重要です。そこで本科目では、近年、注目されたテーマを題材に、各メディアがどのような特性を持つかを分析し、具体的なメディアの活用方法について議論、検討します。また、メディアの表現手法を学ぶことで、自身の表現能力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>社会の動きに関心を持ち、自ら情報を獲得する生活態度を身につける( )  報道される情報を的確に理解し、バランスよく判断できる( )  自ら集めた情報をもとに考えをまとめ、他者と議論することができる( )  メディアの表現方法を学び、自らの表現に生かすことができる( )</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>社会的に注目されたテーマを題材に、グループワークやグループプレゼンテーションを実施します。学習者同士で討議することにより、メディアに対する接し方を深めることができると同時に、流通する情報に対して多面的な見方ができる力を涵養します。特に、一つのテーマに絞り、新聞記事の論調の比較などを実施し、同一事象に対しても、多様な論調があることを理解するきっかけとします。また、取材者の視点や行動を理解するため、課題を課し、情報収集と記事の執筆を求めます。プレゼンテーションの実施と授業後のレポートを求めます。期末試験は実施しません。</p>		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	表現手法、権力、ジャーナリズム、ポストモダニズム、ネット活用、メディアリテラシー		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いません。必要な資料等は授業時に配布しますが、日常的に複数の新聞に接するようにしてください。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	出席状況、授業外課題とグループ・プレゼンテーション、レポート提出(2000字程度)を総合的に判断します。		
受講要件(履修条件)/Requirements	全回出席ができること。与えられた課題に対して事前事後の学習時間を確保できること。		
学生へのメッセージ/Message for students	日常的にメディアに接することがメディアリテラシーを高める近道です。図書館等を利用して、短時間でもいいので、毎日情報に接するようにしてください。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	導入		
第2回	メディアの特徴1(新聞・出版/活字媒体)		
第3回	メディアの特徴2(テレビ・ラジオ/電波媒体)		
第4回	メディアの特徴3(インターネット/ネット媒体)		
第5回	メディアの状況1(マスメディアグループ)		
第6回	メディアの状況2(インターネット系企業)		
第7回	メディアの手法を学ぶ1(発信する情報の収集)		
第8回	メディアの手法を学ぶ2(発信する情報のまとめ方)		

第9回	報道内容を分析する 1 (新聞の論調比較 1)
第10回	報道内容を分析する 2 (新聞の論調比較 2)
第11回	報道内容を分析する 3 (新聞の論調比較 3)
第12回	報道内容を分析する 4 (新聞の論調比較 4)
第13回	記者の立場で考える 1 (ニュースをつくる 1)
第14回	記者の立場で考える 2 (ニュースをつくる 2)
第15回	まとめ / メディアとの接し方を考える
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q5	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(被ばく者と医療)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中島 正洋		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	中島 正洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	中島 正洋, 赤星 正純, 三根 真理子, 宮崎 泰司		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生(クラス等) / Object Student	2年次, 多文化, 経済, 教育, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	moemoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	原研病理		
担当教員TEL / Tel	095-819-7105		
担当教員オフィスアワー / Office hours	木曜日 17:00 ~ 19:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。		
授業到達目標 / Goal	原爆被ばくの人体影響を理解できる。 原爆被爆者の健康調査について理解できる。 原爆被災時の救護活動について理解できる。 被ばく者医療の過去・現在・未来をグループで考えることができる。		
授業方法(学習指導法) / Method	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	原爆被ばく者、救護、疫学調査、放射線の人体影響、被ばく者医療		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお、講義の順番は変更になる場合もある。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	三根真理子: 原爆と医療の概要		
第2回	宮崎泰司: 原爆と血液疾患		
第3回	宮崎泰司: 被ばく者への医療		
第4回	中島正洋: 放射線とがん		
第5回	中島正洋: 放射線被ばく急性障害		
第6回	三根真理子: 原爆直後の救護活動(1)		
第7回	三根真理子: 原爆直後の救護活動(2)		
第8回	三根真理子: 原爆直後の人体影響調査(1)		
第9回	三根真理子: 原爆直後の人体影響調査(2)		
第10回	赤星正純: 原爆被爆者の疫学調査(1)		
第11回	赤星正純: 原爆被爆者の疫学調査(2)		
第12回	赤星正純: 原爆被爆者の疫学調査(3)		
第13回	三根真理子: 原爆直後の人体影響調査(3)		
第14回	三根真理子: 原爆被爆者の疫学調査(大学)		
第15回	三根真理子: まとめ(学生の意見交換)		
第16回			

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/22		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q6	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	正本 忍		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	正本 忍		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	正本 忍		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
対象学生(クラス等) / Object Student	教育・経済・薬学・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	masamoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教員室 総合教育研究棟12階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2928		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日13:00-14:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	ヨーロッパの文化と文明の影響力は今なお大きい。本講義では第一に、ヨーロッパ文化の基層について基礎的な知識を得る。第二に、ヨーロッパ文明が世界にもたらした影響を環境面において検討する。		
授業到達目標/Goal	ヨーロッパの文化的環境の基層について基礎的な知識を得る。その上で、ヨーロッパがどのように独自の文化を形成し、それを変容させていったか、そして、その文化と文明が世界にもたらした影響を環境面において理解し、ヨーロッパを含む世界の今後を展望することができるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	基本的に講義形式で行うが、講義のところどころにアクティヴ・ラーニングを取り入れるようにしたい。		
授業内容/Class outline/Con	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ヨーロッパとは何か</li> <li>2 ヨーロッパ文化の基層1:ケルト</li> <li>3 ヨーロッパ文化の基層2:ゲルマン</li> <li>4 ヨーロッパ文化の基層3:ギリシャ・ローマ</li> <li>5 ヨーロッパ文化の基層3:ギリシャ・ローマ</li> <li>6 ヨーロッパ文化の基層4:ユダヤ教</li> <li>7 ヨーロッパ文化の基層5:キリスト教</li> <li>8 ヨーロッパ文化の基層5:キリスト教</li> <li>9 キリスト教世界における動植物のイメージ</li> <li>10 人と動物のヨーロッパ史:動物虐待と動物裁判</li> <li>11 人と森のヨーロッパ史</li> <li>12 ヨーロッパの拡大と環境破壊</li> <li>13 都市の台頭と環境問題</li> <li>14 近世パリの生活環境</li> <li>15 工業化と環境破壊</li> <li>16 試験</li> </ol>		
キーワード/Key word	ヨーロッパ、文化、文明、環境、歴史		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	K・ボミアン『増補 ヨーロッパとは何か 分裂と統合の1500年』松村剛訳、平凡社(平凡社ライブラリー)、2002年。諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語 神話編』美術出版社、1997年。諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語 聖書編』美術出版社、1997年。D. A. マッケンジー『ゲルマン神話』東浦義夫・竹村恵都子訳、大修館書店、1997年。三輪福松『西洋美術の主題と物語 ギリシア神話と聖書から』朝日新聞社、1996年。西村賀子『ギリシア神話 神々と英雄に出会う』中央公論新社(中公新書)、2005年。ほか		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	定期試験(100%)を予定しているが、場合によってはレポートを課すこともある。なお、定期試験には、論述問題が含まれる。		
受講要件(履修条件)/Requirements	講義中に不必要な私語をしないこと。また、食事をしないこと。		
学生へのメッセージ/Message for students	講義で話された内容が現実の世界にどのように反映されているか、関わっているかを考えながら、受講して下さい。		



学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q7	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(日本語と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	前田 桂子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	前田 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	前田 桂子		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kmaeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部棟624研究室		
担当教員TEL/Tel	2301		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	現代日本語の音韻、文法、語彙、方言などに関する知識を修得し、身近な日本語を探究する態度を育てる。		
授業到達目標/Goal	身近な日本語の成り立ちについて理解を深め、その理由を自ら探究し、自分の言葉で説明する能力を身に付ける。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	日本語 ことば 変化 歴史 地域		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業中に課すレポートおよび期末試験		
学生へのメッセージ/Message for students	身近な日本語の由来を知り、日常的に使用している自らの日本語を内省します。積極的な参加を求めます。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	世界の中の日本語		
第2回	文字について 漢字		
第3回	文字について 仮名		
第4回	語彙について 和語、漢語、外来語		
第5回	語彙について 類義語、複合語		
第6回	標準語、俗語、若者語		
第7回	らしさの表現		
第8回	待遇表現の意義		
第9回	変化する文法		
第10回	変化する文法		
第11回	国語史 音韻の歴史		
第12回	国語史 文体の歴史		
第13回	方言		
第14回	方言		
第15回	単語の意味変化		
第16回	総括		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q8	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	葉柳 和則		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	葉柳 和則		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	葉柳 和則, 小松 悟, 増田 研, 見原 礼子		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
対象学生(クラス等) / Object Student	医学・歯学・工学・環境		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hayanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟12F		
担当教員TEL/Tel	2932		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日3校時 要:メールにてアポイントメント		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	全員で具体的な事例を検討する作業を通して、「ヨーロッパ」、「アジア」、「アフリカ」の<社会・文化・人間>を、それぞれの地域に本質的に備わる固定的なアイデンティティ(同一性)としてとらえるのではなく、その環境(Umwelt=取り囲む世界)である域外の<社会・文化・人間>とのグローバルな相互作用の中で、絶えずゆらぎ、変化し続けるものとして理解する。		
授業到達目標/Goal	ヨーロッパ、アジア、アフリカについての固定的なステレオタイプに対して批判的なまなざしを向け、グローバルな社会と文化の変容の中でこれらの地域について論じることができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	基本は講義形式であるが、授業の展開に即して、グループワークや課題レポート作成を行うことになる。したがって、積極的な参加が必須となる。16回目に筆記試験を課す。		
授業内容/Class outline/Con	ヨーロッパからスタートし、アフリカを経て、私たちの生活世界であるアジアに至るという編成を取る。ヨーロッパ編からアフリカ編へ、アフリカ編からアジア編への論点の接続を明確にすることで、講義全体に一つの流れを与える。		
キーワード/Key word	多言語・多文化国家、EUのトルコ系住民、グローバル化と地域、経済発展と貧困・格差、本質主義		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は用いず授業内容に関連した資料を配付する。可能な限りLACSを用いる。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	各回の課題orレスポンスペーパー(45点)、筆記試験(55点)		
学生へのメッセージ/Message for students	教養教育においては、知識を増やすことも重要ですが、思考の枠組を思い込みやステレオタイプから解き放つことの方がもっと大切です。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	イントロダクション: イメージの中の世界地図(葉柳)		
第2回	ヨーロッパ編(1): グローバル化とEU(1)(見原)		
第3回	ヨーロッパ編(2): グローバル化とEU(2)(見原)		
第4回	ヨーロッパ編(3): 非EUヨーロッパスイス(葉柳)		
第5回	ヨーロッパ編(4): ドイツにおけるトルコ系住民(葉柳)		
第6回	ヨーロッパ編(5): オランダ・ベルギーにおけるトルコ系移民(見原)		
第7回	ヨーロッパ編(6): ヨーロッパのイスラームフォビア(見原)		
第8回	アフリカ編(1): アフリカの「世界史」への参入(増田)		
第9回	アフリカ編(2): 人種の社会的構築(増田)		
第10回	アフリカ編(3): アフリカはいつまで貧困か(増田)		
第11回	アフリカ編(4): 社会開発、とくに保健と学校教育(増田)		
第12回	アジア編(1): グローバル化とアジア(小松)		
第13回	アジア編(2): アジアの開発課題(小松)		
第14回	アジア編(3): 持続可能な開発に向けた国際協力の在り方(小松)		
第15回	まとめ: 本質主義を超えて(葉柳)		
第16回	筆記試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050Q9	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(世界と日本の文化交流)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	野上 建紀		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	野上 建紀		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	野上 建紀		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nogami-takenori@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会1号館		
担当教員TEL/Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時(メールにて要事前連絡)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も多く出土するものの一つである。壊れやすく、再利用が難しいことから、廃棄されやすく、かつ土中や水中にあっても消失することなく残るからである。また、世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となることから最も重要な資料の一つでもある。陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。日本の陶磁器も世界各地の需要に応えた時期があり、それは長崎から運ばれていた。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりを理解できるようになることが授業の目的である。		
授業到達目標/Goal	世界に輸出された日本の陶磁器について説明することができるようになる。日本の陶磁器が世界に与えた影響を説明することができるようになる。世界情勢で日本の陶磁器の輸出が発展した過程を説明することができるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	プリントや画像、映像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な遺跡やその資料を提示しながら、講義を行う。講義の中で適宜、図や写真を観察しながら情報を引き出す作業を行う。適宜、課題を課す。予習・復習のために長崎市内の関連遺跡や博物館施設の見学を強く勧める。		
授業内容/Class outline/Con	第1回は授業全体のオリエンテーションとする。第2~6回は、遺跡からみた日本の対外交渉・対外交渉を考える。特に海を介した文化交流についてみていく。第7~14回は世界に輸出された日本磁器を題材に、世界と日本の文化交流を考える。その内、第7・8回は日本磁器の海外輸出の時代背景をみる。そして、第9~14回はアジア・ヨーロッパ・アフリカ・アメリカなど地域毎に輸出された日本磁器をみながら、世界と日本の文化交流を考える。第15回は授業を総括し、最終試験あるいは最終レポートを課す。		
キーワード/Key word	陶磁器、文化交流、水中考古学		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	適宜、プリントを配布し、教科書は使用しない。参考書は授業の進捗に応じて紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポート・小課題の提出状況 5点×15回=75点、最終試験(あるいは最終レポート)25点の計100点		
受講要件(履修条件)/Requirements	授業内容に関連する長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に研究室へ(事前にメールをください。)		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	授業のオリエンテーション(講義全体の内容や取り組み方などを説明する。)		
第2回	海のシルクロード概論(海を介した文化交流の概要を説明する。)		
第3回	水中考古学概論(海のシルクロード研究において重要な位置にある沈没船研究の方法論を紹介する。)		
第4回	沈没船に見る陶磁器貿易(実際の沈没船資料から当時の陶磁器貿易のあり方を考える。)		
第5回	遺跡からみる文化交流(1) 遺跡からみる対外交渉		
第6回	遺跡からみる文化交流(2) 窯跡からみる陶磁器文化交流		
第7回	日本磁器の誕生と海外輸出(1) 日本磁器の誕生と発展		
第8回	日本磁器の誕生と海外輸出(2) 日本磁器の海外輸出		
第9回	アジアに渡った日本磁器(1) 台湾・マカオへの海外輸出		

第10回	アジアに渡った日本磁器（2）インドシナ半島への海外輸出
第11回	アジアに渡った日本磁器（3）東南アジア島嶼部への海外輸出
第12回	ヨーロッパ・アフリカに渡った日本磁器
第13回	アメリカ大陸に渡った日本磁器（1）ガレオン貿易と日本磁器
第14回	アメリカ大陸に渡った日本磁器（2）ラテンアメリカに渡った日本磁器
第15回	陶磁器からみた文化交流（総括）
第16回	最終試験（あるいは最終レポート）

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050R2	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(共生するアジアの多文化社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	葉柳 和則		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	葉柳 和則		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	葉柳 和則		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟32		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hayanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟12F		
担当教員TEL/Tel	819-2932		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日4校時 要:メールにてアポイントメント		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	共生するアジアの多文化社会をいかに構想すべきか。この問いに対し、社会学、人類学、政治学、歴史学、経済学等の多彩な講師陣による、学際性と総合性を同時に探求した講義を提供する。具体的には「共生」を講義全般に共通する鍵概念に据えて、理論的な基礎を学ぶ「知のクロスオーバー」、さらに「記憶との共生」、「越境する文化・人」、「アジアのガバナンス」の3つのテーマ別セッションで構成する。授業を通じて、国家、市民、地方社会といった多様な主体が形成するアジアの現状についての理解を促すとともに、さらに授業に併催するセミナー等の企画を通じて、「共生するアジアの多文化社会」の課題についての議論を深めていく。		
授業到達目標/Goal	アジアを多文化状況とその共生的未来について、学術的な根拠づけをもって論じることができるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	教員の単独開講の回、ゲスト講師の講演および担当教員・ゲスト講師・受講生共同討議の回を組み合わせることで、講義科目の長所とアクティブラーニングの長所を接続させる形で展開する。		
授業内容/Class outline/Con	講義は四つのパートに別れている。 I 「知のクロスオーバー」 現在の人文・社会科学が「共生」、「文化」、「アジア」にアプローチする際の基本視角を学説する。  II 「記憶との共生」 主として人文的アプローチにより、アジアの歴史・記憶を学問的に捉え、未来を構想するための主要な論点を確認する。  III 「越境する文化・人」 主として社会的アプローチにより、人と文化の移動という観点からアジアを捉え直すための主要な論点を確認する。  IV 「アジアのガバナンス」 主として社会的アプローチにより、アジアの現状と未来を具体的に構想するための主要論点を確認する。		
キーワード/Key word	アジア、共生、多文化社会		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定せず、教材をLACSを利用して配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	各回のレスポンスペーパー 75% 最終レポート 25%		
備考(URL) /Remarks(URL)	<a href="http://asia.prj.nagasaki-u.ac.jp/">http://asia.prj.nagasaki-u.ac.jp/</a>		
学生へのメッセージ/Message for students	本講義は、平成22年度～27年度長崎大学重点研究プロジェクトの成果を教育に還元するという目的を持ちます(上記URL参照)。 ゲスト講師は、重点研究プロジェクトが獲得した予算の枠組で招聘します。ゲスト講師を交えて授業と関連したシンポジウムを開催しますので、積極的に参加してください。ゲスト講師とシンポジウムについては授業の際に詳しく説明します。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		

第1回	「知のクロスオーバー」 記憶との共生（葉柳和則）
第2回	「知のクロスオーバー」 方法論的トランスナショナリズムとアジア（葉柳和則）
第3回	「知のクロスオーバー」 非西欧型政治学とアジア（森川裕二）
第4回	「記憶との共生」 歴史と記憶（葉柳和則）
第5回	「記憶との共生」 東アジア共同体の構築（葉柳和則）
第6回	「記憶との共生」 植民地経験者の歴史と記憶（南誠）
第7回	「越境する文化・人」 漂泊する民（中国少数民族）（首藤明和）
第8回	「越境する文化・人」 越境する人と宗教（滝澤克彦）
第9回	「越境する文化・人」 越境する人がつくるアジア（賽漢卓娜）
第10回	「越境する文化・人」 東アジアの文化交流（王維）
第11回	「越境する文化・人」 アジア海域交流史（野上建紀）
第12回	「アジアのガバナンス」 <経済アジア> 貧困からの脱却（小松悟）
第13回	「アジアのガバナンス」 日中関係と歴史認識（森川裕二）
第14回	「アジアのガバナンス」 「リージョナリズムとアジア」（森川裕二）
第15回	「アジアのガバナンス」 「アジアのガバナンスと市民社会」（森川裕二&コンベル・ラドミール）
第16回	レポート

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660050R3	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(社会学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	南 誠		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	南 誠		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	南 誠		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟43		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	lisk-minami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟303		
担当教員TEL/Tel	095-819-2926		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールで連絡		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	社会学の基礎知識と社会を捉えるための方法を習得することにある。		
授業到達目標/Goal	社会学の考え方や方法の習得をとおして、現代社会を理解・研究するための力を身につけ、社会諸現象を社会的に説明することができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	基本的には、パワーポイントを用いた講義形式による。必要に応じて、グループワークを行う。		
授業内容/Class outline/Con			
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書はとくに指定しない。授業のなかで適宜に参考文献と課題文献を紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	定期試験(80%)、授業および討論への参加度(20%)		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	イントロダクション		
第2回	社会学の確立		
第3回	社会学の発想		
第4回	親密空間と公共空間		
第5回	自己と相互行為		
第6回	家族とライフコース		
第7回	職業と組織		
第8回	グローバルとナショナル		
第9回	エスニシティと境界		
第10回	歴史と記憶		
第11回	社会的包摂と排除		
第12回	映像で社会学 映像資料鑑賞		
第13回	映像で社会学 グループ討論		
第14回	映像で社会学 グループ討論		
第15回	映像で社会学 グループ討論		
第16回	定期試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q1	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(メディアと平和)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	森川 裕二		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	森川 裕二		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	森川 裕二		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
対象学生(クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	morikay@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL/Tel	095-819-2904		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日9:00~12:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	ジャーナリズムは、第二次大戦後の「世界の平和」についてどのような視点から報道してきたのか。国際政治の中での日本の立ち位置をジャーナリズムを通じて学びます。とくに冷戦後の世界と、3.11後に政治・経済各面の矛盾を浮き彫りにした核開発と原子力平和利用を分離してきたメディアの対応を批判的に議論し、「核なき世界」と平和実現の課題について考える。		
授業到達目標/Goal	平和な世界を実現するために、ジャーナリズムに何を期待すべきか。戦争と平和そして核についての報道を批判的に論じるための視点を身に着ける。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義と討論。講義は国際秩序と平和についての歴史的な流れを主要メディア報道に関連づけて理解するための総論のほか、各論では講義陣に「オルタナティブなメディア」(主要メディアとは異なるメディア:小倉利丸、山口響)、「ローカルメディア」(地方紙:普久原均・琉球新報社論説委員、蓑川裕之・長崎新聞社記者)の現役ジャーナリスト4人が参加し、生きた「平和ジャーナリズム」論について学ぶ。講義をもとにグループ討論の時間を2回用意する。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	冷戦後の世界、国際秩序、核政治、ジャーナリズム		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考図書:『日米核同盟』太田昌克(岩波書店)。藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店。『普天間移設 日米の深層』琉球新報「日米廻り舞台」取材班(青灯社)、『琉球新報が伝える 沖縄の「論理」と「肝心」』琉球新報社論説委員会(高文研)。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポート40% 試験50% 授業・討論の取組み姿勢10%		
受講要件(履修条件)/Requirements	週平均2時間、授業外学習(関連図書・資料のチェックなど)にあてること。日々の新聞・TVの国際関係記事をチェックする習慣をつけること		
学生へのメッセージ/Message for students	事実関係の細部を把握すること以上に、事実関係の背後にある構造と考え方を探求することが大事です。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	メディアは平和をつくれるか(総論、森川)		
第2回	権力とメディア(小倉)		
第3回	戦後国際秩序と日米同盟(森川)		
第4回	冷戦と平和(森川)		
第5回	新しい戦争とメディア(9.11後のジャーナリズム、森川)		
第6回	原子力平和利用と日本の核政治(森川)		
第7回	長崎のメディアは原子力「平和」利用をどう報じたか(山口)		
第8回	3・11後のオルタナティブ・メディア 原発政治をめぐる(山口)		
第9回	反核・反戦運動の中のメディア(山口)		
第10回	反核・反戦運動の中のメディア(グループ討論、山口)		
第11回	沖縄基地問題と日米同盟(琉球新報社記者・普久原)		
第12回	地方メディアと平和報道(長崎新聞社記者・蓑川)		



第13回	地方メディアと平和報道（長崎新聞社記者・蓑川）
第14回	核政治と国際報道（森川）
第15回	核政治と国際報道（グループ討論、まとめ、森川）
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q2	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(核軍縮の法と政治)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓, 西田 充, 石司 真由美, 鈴木 達治郎		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生(クラス等) / Object Student	2年次生, 多教経薬水		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL/Tel	内線 2204		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜3、4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	昨年度モジュール で学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解の上に、核兵器をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができればよいと考えています。		
授業到達目標 / Goal	具体的な到達目標としては、核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
授業方法(学習指導法) / Method	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせたの授業にする予定です。できるだけ毎回リアクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。また、実際に外務省で軍縮交渉を担当している方を客員として招聘し、交渉の現実について、生の声を聴くことも予定しています。		
授業内容 / Class outline/Con			
キーワード / Key word	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	テキスト：特に指定しません。 参考書：黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂 黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社 黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社 藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社 上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。		
備考 (URL) / Remarks(URL)	<a href="http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp">http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp</a>		
学生へのメッセージ / Message for students	講義の進度、講師のスケジュール等により、多少予定が変更になる場合があります。授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめてに：授業の進め方(広瀬) 「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か ・核兵器と安全保障		

第2回	「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「軍縮」とは何か</li> <li>・「軍備管理」とは何か</li> <li>・「不拡散」とは何か</li> </ul>
第3回	核兵器の削減(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の取組</li> <li>・二国間の取組</li> <li>・地域的取組</li> </ul>
第4回	核不拡散条約(NPT):その1(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・成立の背景と経過</li> <li>・内容と特徴</li> </ul>
第5回	核不拡散条約(NPT):その2(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1995延長会議</li> <li>・再検討プロセス</li> <li>・現状と問題点</li> </ul>
第6回	原子力の平和利用と不拡散(広瀬/鈴木達治郎) <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学者の社会的責任</li> </ul>
第7回	核実験の禁止(石司) <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分的核実験禁止条約(PTBT)</li> <li>・包括的核実験禁止条約(CTBT)</li> </ul>
第8回	非核兵器地帯(石司) <ul style="list-style-type: none"> <li>・非核兵器地帯とは何か</li> <li>・世界の非核兵器地帯</li> <li>・北東アジア非核兵器地帯提案</li> </ul>
第9回	新しい核軍縮の試み(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵器用核分裂性物質生産禁止条約(カutoff)</li> <li>・核兵器不使用条約</li> <li>・核兵器禁止条約</li> </ul>
第10回	核軍縮と国際人道法(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際人道法とは何か</li> <li>・核兵器は国際法違反か</li> </ul>
第11回	核軍縮交渉の舞台(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュネーブ軍縮会議(CD)</li> <li>・国連総会および第一委員会</li> <li>・国連軍縮特別総会(SSOD)</li> </ul>
第12回	核軍縮交渉の現状と問題点(予定) <ul style="list-style-type: none"> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>
第13回	核軍縮交渉の現状と問題点(予定) <ul style="list-style-type: none"> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>
第14回	核軍縮交渉と世論(広瀬/石司) <ul style="list-style-type: none"> <li>・核軍縮交渉と市民</li> <li>・私たちにできること</li> </ul>
第15回	まとめ(広瀬)
第16回	期末レポート提出

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q3	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(資源・エネルギー問題への取組み)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 敬彦		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 敬彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 敬彦, 藤本 登, 嶋野 武志		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yamac@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	工学部2号館E405		
担当教員TEL/Tel	095-819-2539		
担当教員オフィスアワー/Office hours	別途指示する。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本のエネルギーの特徴と課題や地球温暖化対策推進法, 省エネ法等の関連法規の内容ならびに日本のエネルギー問題への取組みを理解させるとともに, 省エネや地球温暖化防止に取り組む姿勢を醸成させる。		
授業到達目標/Goal	日本のエネルギーの特徴と課題を理解させる。また, 日本のエネルギー問題への取組みを理解させる。		
授業方法(学習指導法)/Method	予習課題を基にした討論と解説		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	資源, エネルギー問題, 温暖化対策		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	予復習課題30%, 試験20%, レポート50%で評価し, 60%以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし		
学生へのメッセージ/Message for students	関連する新聞記事やニュース等をチェックしておくとう理解が進む。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ガイダンス 科目の概要, 狙い, 位置づけ, 到達目標, 授業の方法, 各単元の到達目標, 評価方法等を理解する。		
第2回	日本のエネルギー事情(その1) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。		
第3回	日本のエネルギー事情(その2) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。		
第4回	日本のエネルギー事情(その3) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。		
第5回	日本のエネルギー事情(その4) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。		
第6回	日本のエネルギー事情(その5) 日本のエネルギー事情について, その特徴と課題, 日本のエネルギー問題への取組みを理解し, 簡潔にまとめる。		
第7回	地球温暖化対策推進法(その1) 地球温暖化対策推進法について, 内容を理解し, 簡潔にまとめる。		
第8回	地球温暖化対策推進法(その2) 地球温暖化対策推進法について, 内容を理解し, 簡潔にまとめる。		
第9回	地球温暖化対策推進法(その3) 地球温暖化対策推進法について, 内容を理解し, 簡潔にまとめる。		

第10回	地球温暖化対策推進法（その4） 長崎大学における地球温暖化対策について調べ、取るべき行動を理解する。
第11回	省エネ法（その1） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
第12回	省エネ法（その2） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
第13回	省エネ法（その3） エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。
第14回	省エネ法（その4） 長崎大学の省エネ対策について調べ、省エネ方法について理解する。
第15回	テスト・レポートのまとめ テストによる知識の定着の確認を行う。また、資源・エネルギー問題への取組みのまとめを完成させる。
第16回	総括 講義の評価を行い、改善点等について議論する。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q4	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(資源管理論)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	梅津 千恵子, 濱崎 宏則		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	梅津 千恵子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	梅津 千恵子, 濱崎 宏則		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
対象学生(クラス等) / Object Student	1年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	umetsu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	環4 5 1 (梅津) 環4 4 9 (濱崎)		
担当教員TEL / Tel	2724 (梅津) ; 2742 (濱崎)		
担当教員オフィスアワー / Office hours	木15:00-17:00 (梅津) 月14:00-17:00 (濱崎)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	土地資源、水資源、森林資源、水産資源、エネルギー資源等さまざまな資源を持つ特質を理解し、資源配分を決める経済的、政治的しくみと管理について実例を挙げながら概説する。		
授業到達目標 / Goal	さまざまな資源を持つ特質を理解し、資源配分を決める経済的、政治的しくみについて学ぶ。資源管理の主体となる組織の役割や異なる利害の調整の方法について理解する。		
授業方法(学習指導法) / Method	前半では実例を挙げながらグラフを使ったマイクロ経済学的アプローチにより講義する。後半では、グローバル化が進む国際社会の意思決定プロセスについて基礎的な講義を行うとともに、アクティブ・ラーニングの一環として、ロールプレイングやグループによるプレゼンテーションを取り入れる。		
授業内容 / Class outline / Con	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資源経済学の課題</li> <li>2. 環境資源と開発の経済学</li> <li>3. 環境資源政策の目標・手段・主体</li> <li>4. 地球環境資源と経済</li> <li>5. コモンズと地域共有資源</li> <li>6. 資源経済学と地球環境問題－貧困と環境の関連</li> <li>7. 持続可能な発展への課題</li> <li>8. 後半イントロダクション：グローバル社会と資源の争奪戦、管理の行方</li> <li>9. 水資源の管理と国際関係 - 弱い国際規範、強い地政学的条件</li> <li>10. 水資源の管理と責任の所在 - 流域界の規模と管轄、主体の役割を考える</li> <li>11. 水資源の管理と責任の所在 - 流域界の規模と管轄、主体の役割を考える</li> <li>12. 水と森林、土地の統合的管理 - 外国資本による水源涵養林買取事例から</li> <li>13. 水、食料、エネルギー連関から資源管理・利用を考える</li> <li>14. 小括：グローバル社会における資源管理の枠組を考える</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 試験</li> </ol>		
キーワード / Key word	グローバル社会、資源管理、意思決定、資源の希少性、コモンズ		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	前半(梅津担当分) 植田和弘著 「環境経済学」 岩波書店 2011年 後半(濱崎担当分) 特に教科書は指定せず、教員作成の資料に基づいて授業を進める。参考文献は毎回の授業で紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	授業後のレスポンスシート(20%)、グループ発表(20%)、期末テスト(60%)		
受講要件(履修条件) / Requirements	特になし		
学生へのメッセージ / Message for students	現在と将来の資源を有効に利用するためのしくみを学びましょう。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	他/Oth. 0
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q5	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(私たちと法)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	江口 勇治		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	江口 勇治		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	江口 勇治		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[教育]本館2F第23講義室		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	guchiyu@human.tsukuba.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	非常勤講師室		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	授業のねらいは、日常生活において求められる法・ルール・きまりの意義やその指導の在り方を考えることから、今求められるリーガル・リテラシーの基礎について、「法教育」の側面から実際にとらえることである。なお授業者は法律学の専門家ではなく、小・中・高校での法教育を訴えてきた教育学の研究者でありその角度から「法」を考える。		
授業到達目標/Goal	法律学の素人であっても、法・ルール・きまりに向き合うことを理解し、人々とともに規範を共有することの意義と限界を考えられることをこの授業のもっとも基礎的な到達点とする。あわせて一層、法・司法などへの専門的な興味・関心が高まることもねらいたい。		
授業方法(学習指導法)/Method	アメリカの小学校で作られたテキストを利用して、「正義・公正」「責任」「権威」「自由」「幸福」などの観念を、日常に生活の実態に移して実際に考えさせる。授業では設問を用意し、それについて対話するという形式を随時取り入れた。また「法的な見方や考え方」の模擬授業も可能な計画する。		
授業内容/Class outline/Con	集中講義のため、講義をおおよそ四つもパートにわけて、授業内容にメリハリをつける。具体的には、では「法的な見方や考え方」に向き合うことを共有する講義を実施する。では、「私たちと法」のテーマとして「正義」「責任」「権威」「自由」について、日常での設問からその実際をそれぞれに考えさせる。では、そこで共に議論された内容をより深めるために、法的な見方や考え方としてとらえさせる。では互いに確認されたことを「子供たちに教育する」という視点に立って模擬的な授業をつくりあげる。なおこれまで実施してきた法教育の取り組みや授業の実際についてビデオ等を視聴することも設定する。		
キーワード/Key word	法的な見方や考え方 法教育 リーガル・リテラシー		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いない。適宜資料を印刷し、配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業へ参加・貢献度(30%)、講義での小レポートの評価(20%)、レポート(50%)をもとに、総合的に評価する。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	第一回 オリエンテーション 「私たちと法」の科目の意義と「法教育」についての説明を行う。		
第2回	第二回 法教育のこれまでの取り組みと法曹三者の法教育への関与等についての概略を示すとともに、新学習指導要領での法教育の位置づけを講義する。		
第3回	第三回 アメリカのテキストを参考に「正義」「責任」を法や司法の側面から考えることの意義を理解するとともに、その共有の仕方等について考える。		
第4回	第四回 同様に「権威」「自由」のテーマをもとに話し合い、あわせて我が国の子供たちが学ぶべき「公正」「幸福」「正義」などについて学校教育の側面からとらえることの意義を講義する。		
第5回	第五回 「正義」のもとで「私たちと法」の論点から、日常的な事例を設定し、その問題への向き合い方や解決方法等を互いに話し合い、整理することを通じて「正義」や「公正」の日常的な価値を法とのかかわりからとらえる。		
第6回	第六回 「責任」をとらえることの意味を同じように「日常性」から考える設問を設定し、それについての論議を通じて、法的な「責任」とその他の「責任」の異同について互いに話し合う。		
第7回	第七回 「権威」「自由」について、政治的な見方、経済的な見方、法的な見方からそれぞれの社会的価値を考えるとともに、私たちの生活においてそれぞれの有効性を、個別具体的な事例をもとに話し合い、法的な見方の特徴を共有する。		

第8回	第八回 以上の議論整理の中から重要と思われる具体的な紛争・対立的な構図をより実際にお互いに話し合い、問題の整理とその解決に向けた取り組みを行う。なおここではおもに学校での教育や教材を想定して、その題材を設定する。
第9回	第九回 第八回と同じ形式で、具体的な問題をもとに、法的な思考をとらえることの意義を私たちの生活との関わりから考える。なお公的なことと私的なことの違いについての理解を深める工夫を合わせて行う。
第10回	第十回 小・中・高校のそれぞれの学校段階を想定して、「私たちと法」ということで重要と思われる題材や教材をお互いにつくり模擬授業を実施し、その評価を話し合い、その修正を行う。
第11回	第十一回 第十回と同じような活動や作業を実施し、「法」を現代において観念し共有する意義と問題点、限界などを話し合う。
第12回	第十二回 これまでの授業を整理するとともに、法的な事柄を超えて向き合い、物事を進めようとする人々の活動や考え方にも着目して、「私たちと法」の関係を多面的に考えることの大切さを理解する。
第13回	第十三回 法教育の在り方を学校教育ばかりでなく、生涯学習社会の教育の在り方としても考える視点を持ち、日常に生きる人々にとっての法的な見方や考え方の意義や可能性について、教材という形で成果を構想する。
第14回	第十四回 「私たちと法」という観点の持つ意味を、地域的に考え、社会の安心等に資する学び方の方向性を提案する。あわせて国際的にも考える必要性についても話し合い、その論点を整理する。
第15回	第十五回 ある具体的な紛争的な問題を設定し、対話・対審的に議論し、審議することから生まれる法的な見方や考え方の価値を検討する。
第16回	第十六回 具体的な課題に対して、レポートを提出し、文書として論点を整理、保存することの意義を学ぶ。



学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505660070Q6	科目番号 / Subject code	05660070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	法と政治(ジェンダーと法)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	植木 とみ子		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟23		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室/Laboratory	非常勤講師室		
担当教員TEL/Tel	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー/Office hours	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	いまだ男女共同参画が実現していない現代日本社会にあって、ジェンダーバイアスとは何かを見る目を養い、バイアスにとらわれていることで、日本人がいかに精神的、経済的に貴重なものを逃しているかに気づいていただきます		
授業到達目標/Goal	すぐにはものの見方、考え方が変わるとは思われませんが、少なくとも身の回りの事象を歴史的・大局的に見る訓練をする事により、グローバルスタンダードを持ち、今の日本の閉塞状況を打ち壊すことができるような、自立した大人になるお手伝いをします		
授業方法(学習指導法)/Method	基本的には講義ですが、みなさんに自分で考えていただくために演習形式も取り入れて、できるだけ多く質問を投げかけ、一緒に考えて行きたいと思っています。みなさんには積極的に参画していただきたいと思ひます		
授業内容/Class outline/Con	<p>「第一部 ジェンダーはどう形成されてきたか(1~5)」では、過去の男女のジェンダー役割とその変遷を振り返ります</p> <p>「第二部 男女共同参画社会形成への道(6~8)」では、国際婦人年をきっかけにした女子差別撤廃から男女共同参画までの世界と日本の歩みを見ます</p> <p>「第三部 いまだ残る問題点(9~14)」では、わが国においていまだ根強くある様々なジェンダーバイアスの実態を知り、そのことがいかに社会問題を引き起こしているかを検証します</p> <p>「第四部 真の男女共同参画社会の実現に向けて(15)」では、ジェンダーバイアスにとらわれない、しなやかな生き方ができるための方策を探ります</p> <p>あらかじめ決まったテキストはありません。毎回プリントを配布しますし、関連した文献を紹介いたします</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	プリント配布、そのつど参考文献を紹介する		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業での積極的発言、毎回の短い感想文、定期試験の成績を総合評価する		
学生へのメッセージ/Message for students	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	歴史に見る男女の姿 (古代・未開社会と母系制、封建社会における男性優位主義)		
第2回	明治から昭和初期の女性 (天皇制家族国家体制下での男性と女性、作られた「良妻賢母主義」)		
第3回	戦後の解放 (憲法、民法改正の中での女性の地位、女性の社会進出)		
第4回	高度成長期における男性と女性 (マイホーム主義、男女の役割分担の拡大最生産)		
第5回	世界史での女性差別 (ハムラビ法典から近代市民社会成立期まで)		
第6回	世界的な女性解放の潮流 (国際婦人年をきっかけに、「女子差別撤廃条約」登場の背景)		
第7回	世界の現状 (北欧先進諸国の女性たち、開発途上国の女性たち)		
第8回	日本の取組み (国の「婦人問題企画推進本部」設置から、「男女雇用機会均等法」制定の舞台裏、地域での取組み)		
第9回	ジェンダーと法制度 (憲法における平等保障、皇室典範や民法にいまに残る男系主義)		
第10回	ジェンダーと政治 (政治はだれのもの、日本の女性議員の割合は世界でも超低レベル)		

第11回	ジェンダーと雇用（女性の平均賃金は男性の半分、女性が働き続けられないワケ）
第12回	ジェンダーと福祉・社会保障（女性たちはなぜ子どもを産まないか、主婦の年金は誰が払うの？）
第13回	ジェンダーと家族（夫と妻の役割、いま子どもが育っていない！）
第14回	ジェンダーと性（リプロダクティブ・ライツ、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント）
第15回	新たな生き方の提示（高齢社会は資源の宝庫、一度の人生を悔いなく生きる）
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566011003	科目番号 / Subject code	05660110
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本国憲法		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	植木 とみ子		
科目分類 / Class type	教職免許科目・その他 , 人文・社会科学科目, 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室/Laboratory	非常勤講師室		
担当教員TEL/Tel	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー/Office hours	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています		
授業到達目標/Goal	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します		
授業方法(学習指導法)/Method	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています		
授業内容/Class outline/Con	まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。 日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	日本国憲法の条文を各自用意して下さい(103条しかありませんから、コピーしてもらいたいたことはありません) 裁判例についてはこちらで用意します		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	判例や条文に関する試験を実施します		
学生へのメッセージ/Message for students	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	法とはなにか、憲法と他の法律との関係		
第2回	国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)		
第3回	平和主義 (憲法9条、 沖縄)		
第4回	幸福追求権 (プライバシーの権利、 自己決定権)		
第5回	法の下での平等 (男女は平等か、 尊属殺について)		
第6回	内心の自由 (信教の自由、 政教分離、 学問の自由と大学の自治)		
第7回	表現の自由 (ポルノ・有害図書、 報道の自由と限界、 教科書検定)		
第8回	経済的自由 (職業選択の自由と営業の規制、 私有財産の保障とその制限)		
第9回	人身の自由 (適正手続きとは、 死刑制度について)		
第10回	社会権 (生存権と生活保護、 教育権は誰のもの、 労働基本権)		
第11回	国務請求権と参政権 基本的人権の限界 (公務員、 外国人、 私的關係)		
第12回	立法 (国会の二院制は必要か、 一票の重みの格差)		
第13回	行政 (議員内閣制、 行政の肥大化)		

第14回	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
第15回	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 6
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566011004	科目番号 / Subject code	05660110
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本国憲法		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	植木 とみ子		
科目分類 / Class type	教職免許科目・その他 , 人文・社会科学科目, 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室/Laboratory	非常勤講師室		
担当教員TEL/Tel	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー/Office hours	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています		
授業到達目標/Goal	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します		
授業方法(学習指導法)/Method	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています		
授業内容/Class outline/Con	まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。 日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	日本国憲法の条文を各自用意して下さい(103条しかありませんから、コピーしてもらいたいたことはありません) 裁判例についてはこちらで用意します		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	判例や条文に関する試験を実施します		
学生へのメッセージ/Message for students	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	法とはなにか、憲法と他の法律との関係		
第2回	国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)		
第3回	平和主義 (憲法9条、 沖縄)		
第4回	幸福追求権 (プライバシーの権利、 自己決定権)		
第5回	法の下での平等 (男女は平等か、 尊属殺について)		
第6回	内心の自由 (信教の自由、 政教分離、 学問の自由と大学の自治)		
第7回	表現の自由 (ポルノ・有害図書、 報道の自由と限界、 教科書検定)		
第8回	経済的自由 (職業選択の自由と営業の規制、 私有財産の保障とその制限)		
第9回	人身の自由 (適正手続きとは、 死刑制度について)		
第10回	社会権 (生存権と生活保護、 教育権は誰のもの、 労働基本権)		
第11回	国務請求権と参政権 基本的人権の限界 (公務員、 外国人、 私的關係)		
第12回	立法 (国会の二院制は必要か、 一票の重みの格差)		
第13回	行政 (議員内閣制、 行政の肥大化)		

第14回	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
第15回	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 6
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566011005	科目番号 / Subject code	05660110
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本国憲法		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	池谷 和子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	池谷 和子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	池谷 和子		
科目分類 / Class type	教職免許科目・その他, 人文・社会科学科目, 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部 of 学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kazukeya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部本館 6 0 9 研究室		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日の 4 校時		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	憲法の基本事項を理解し、実生活と関連づけて捉えられることが出来るような授業を行う。		
授業到達目標 / Goal	今後の人生や就職に役立つような憲法の知識を身に付けさせること。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義 + レポートの作成		
授業内容 / Class outline / Con	1 オリエンテーション 2 憲法の基礎 3 国民主権と天皇制 4 平和主義 5 基本的人権の基礎 6 包括的基本権と法の下での平等 7 精神的自由権 8 精神的自由権 9 経済的自由権 10 人身の自由・国務請求権・参政権 11 社会権 12 国会 13 内閣 14 裁判所 15 財政・地方自治・憲法保障		
キーワード / Key word	憲法		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	・教科書: 芦部信喜『憲法第五版』岩波書店 ・六法(出版社は問わない)も持参すること		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	毎回のレポートの合計により成績評価		
受講要件(履修条件) / Requirements	4/5以上の出席が必須		
学生へのメッセージ / Message for students	教科書の該当部分を事前に予習した上で、それに関連した事柄について情報収集(テレビや新聞を見る、家族や友人と話をする等)をし、自ら日常生活に則して憲法を考えるように心がけておけば、レポートが書きやすくなります。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 6
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566011006	科目番号 / Subject code	05660110
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本国憲法		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植木 とみ子		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	植木 とみ子		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	植木 とみ子		
科目分類 / Class type	教職免許科目・その他 , 人文・社会科学科目, 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟23		
対象学生 (クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	非常勤講師室		
担当教員TEL/Tel	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー / Office hours	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています		
授業到達目標 / Goal	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します		
授業方法 (学習指導法) / Method	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています		
授業内容 / Class outline / Con	まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。 日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	日本国憲法の条文を各自用意して下さい (103条しかありませんから、コピーしてもらいたいたことはありません) 裁判例についてはこちらで用意します		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	判例や条文に関する試験を実施します		
学生へのメッセージ / Message for students	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	法とはなにか、憲法と他の法律との関係		
第2回	国民主権 (大日本帝国憲法と日本国憲法)		
第3回	平和主義 (憲法9条、沖縄)		
第4回	幸福追求権 (プライバシーの権利、自己決定権)		
第5回	法の下での平等 (男女は平等か、尊属殺について)		
第6回	内心の自由 (信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治)		
第7回	表現の自由 (ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定)		
第8回	経済的自由 (職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限)		
第9回	人身の自由 (適正手続きとは、死刑制度について)		
第10回	社会権 (生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権)		
第11回	国務請求権と参政権 基本的人権の限界 (公務員、外国人、私的關係)		
第12回	立法 (国会の二院制は必要か、一票の重みの格差)		
第13回	行政 (議員内閣制、行政の肥大化)		



第14回	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
第15回	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
第16回	定期試験